

サポートセンター通信

祝 No. 100(記念号)

特集記事

100号記念 新春座談会
(3～6ページ)



発行日：2023年2月15日 第100号

発行元：松本市市民活動サポートセンター
〒390-0874

松本市大手 3-8-13 松本市役所大手事務所 2階
TEL/FAX:0263-88-2988

Mail:support-center@support-center.jp

URL:http://www.support-center.jp

Youtube チャンネル(右 QRコード)



プラチナサロン「新春寄席」で初笑い

2023新春寄席



新春寄席 演目

- ① 初笑い「笑門来福」笑い方教室
- ② 初音(草笛他)
- ③ 歌唱
- ④ マジック笑
- ⑤ 南京玉すだれ
- ⑥ 語り部
- ⑦ 琴の演奏

去る1月12日(木)午前10時から午後2時30分まで、コロナ禍にめげることなく、市民活動サポートセンターにて3年振りのプラチナサロン「新春寄席」が開催されました。

午前中の約30名の見学者が見守る中、出し物は、プラチナサポーターズが中心に笑い方教室から始まり、プラチナコーラス指導の三木明子先生による独唱、アルプス草笛会の皆さんの草笛、ハーモニカ、尺八、オカリナ、ケーナの演奏を聞いた後、マジック、南京玉すだれ、語り部、お琴の演奏まで、芸達者なメンバーが特技を披露し、寄席は笑いに包まれ大いに盛り上がりました。

午後は、3種類の簡単な遊び(羽根っこ、ストライクアウト、輪投げ)を午前から残ったメンバー13名で楽しみました。(本木)

～出演者の皆さま～

楽しい時間をありがとうございました。

思い出で綴るサポセンの歩み

2022 サポセン、SNS始めました!
 「いただきます2」上映会 & 学校給食を考える
 サポセンチャレンジ 新企画スタート

2021 市民活動フェスタ4年ぶり開催
 新型コロナウイルスの影響により市民活動フェスタ中止
 松本城案内グループ 松本市社会福祉大会で表彰される

2020 市民活動商店街を開催
 市民活動団体交流会開催
 森倶楽部 21 功績が認められ表彰される
 松本市朗読赤十字奉仕回「ひびきの会」功績が認められ表彰される
 「市民活動と協働を推進するための基本指針」が策定される
 市民協働フォーラム開催
 プラチナサポーターズ松本始動 サポセンと「協働」開始
 (祝)登録団体 300 団体達成

2019 アルプス善意通訳協会 知事表彰
 アルプス善意通訳協会 功績が認められ表彰される

2018 松本震災支援ネット始動
 第23回国連軍縮会議in松本開催 『国際草の根軍縮会議INまつもと』開催

2017 アルプス善意通訳協会 知事表彰
 アルプス善意通訳協会 功績が認められ表彰される

2016 市民協働フォーラム開催
 プラチナコーラス始動
 ヤングサロン開催

2015 市民協働フォーラム開催
 プラチナ世代の相談窓口「とまり木」Open
 第1回市民活動フェスタ開催 第1回ふれあいサロン開催

2014 プラチナコーラス始動
 ヤングサロン開催

2013 松本震災支援ネット始動
 第23回国連軍縮会議in松本開催 『国際草の根軍縮会議INまつもと』開催

2012 松本震災支援ネット始動
 第23回国連軍縮会議in松本開催 『国際草の根軍縮会議INまつもと』開催

2011 松本震災支援ネット始動
 第23回国連軍縮会議in松本開催 『国際草の根軍縮会議INまつもと』開催

2010 机の寄贈(奈川木工業組合様) 現在のフリースペースに設置
 第1回市民活動フォーラム開催 市民活動講座開講 ボランティア相談コーナー開設
 (祝)登録団体 200 団体達成

2009 第1回市民活動フェスタ開催 第1回ふれあいサロン開催

2008 アルプちゃん 着ぐるみ 貸出し開始

2007 市民活動サポートセンター 2005年開所
 シーズ「Close Up!」第1号 アルプス善意通訳協会

2006 シーズ「Close Up!」第1号 アルプス善意通訳協会

2005 市民活動サポートセンター 2005年開所

サポートセンター通信 100号記念 新春座談会

<テーマ> 市民活動、サポートセンターの過去・現在、そして未来

日時:令和5年1月26日(木)9:30~12:00 会場:松本市市民活動サポートセンター

出席者(敬称略)

- 久島 和子… 元市民活動推進委員会委員長
(NPO 法人ライフデザインセンター代表)
- 桑原 美由紀… ふれあいマーケット/ふれあいサロン事務局
(NPO 法人てくてく代表)
- 臼井 光裕… プラチナサポーターズ松本会長
- 黒岩 さおり… 元協働推進コーディネーター(元職員)

- 山田 正(司会)
松本市市民活動
サポートセンター長



山田(司会) 本日はお忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。

2005年9月に市民活動サポートセンター(通称「サポセン」)が開設されて以来17年が経ちました。本座談会は、サポートセンター通信第100号を記念し、サポセンに特に縁の深い方々をお迎えし、過去から現在に至るまでの市民活動やサポセンの思い出などを語っていただき、ひいては、これからの市民活動の取組み、これからのサポセンの姿(期待や可能性)などについて意見交換していただければと思います。それではまず、過去から現在に至るまでについて、それぞれのお立場で思いを語っていただきます。



久島 和子

元NPO法人長野県NPOセンター職員。NPO法の制定を受け、県内外のNPO活動を調査。自らもNPO法人ライフデザインセンターを立ち上げ代表に。サポセンの開設当初から市民活動推進委員会委員長として運営に尽力

阪神淡路大震災が一つのきっかけとなり平成10年にNPO法が成立しました。ライフデザインセンターもNPO法人として、それから約20年間活動してきました。当時はボランティア活動の気運が高まり、熱い思いでスタートしたNPO法人にとって上り坂の時代でした。それから団体も高齢化が進み、今現在一番の悩みは後継者の問題です。次の世代への継承について考える時、“熱い思い”だけでは困難であり、NPO法人としての事業基盤や制度が整っているかが問われていると感じます。



臼井 光裕

県シニア大学の事務局代表としてプラチナフォーラムに参加。その発展型で今から10年前に発足したプラチナサポーターズ松本の立ち上げに参加。現在二代目の代表

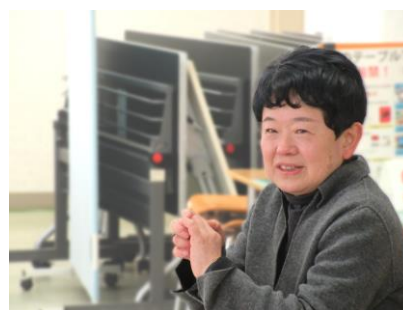
プラチナサポーターズ松本はちょうど今から10年前に発足し、サポセンと一番活動を共にする団体です。発足時、黒岩さんには大変お世話になった。前段のNPO法人のお二人と違い、サポセンにおんぶして貰っている感は否めない。サポセンに支えられて何とかこれまでやってこれた。サポセンには感謝しかない。



桑原 美由紀

サポセン創設時の元職員。障がい者の社会参加をテーマに、NPO法人てくてくを設立し代表に。障がい者による販売交流会ふれあいマーケットやサポセンのふれあいサロンを主宰

NPO法人てくてくを立ち上げた当初は、如何に安定したものにしていくか模索する中、同時期にサポセンが立ち上がり、活動の趣旨に賛同いただき、いろんな方面への紹介や結びつきでご協力いただきました。サポセンは団体にとって、活きた図書館、人財バンク的な存在で、助成金獲得や戦略についての相談などで応援していただいたことが励みとなりました。



黒岩 さおり

サポセン創設時の元職員にして初代協働推進コーディネーター。NPOの黎明期に手探りで交流会、フォーラムなどを開催し登録団体を発掘。サポセンの誕生から成長期にかけて大いに貢献

登録団体はボランティアから派生しNPO法人、任意団体などになったが活動のスタートは一人のボランティア。一人の思いを、共有する仲間がいて一緒にやっぴいこうよ、とやがてグループとなり、更に他のグループと連携していくことでパワーアップする。それが初代コーディネーターとして交流会を始めたキッカケでした。そのグループだけでは解決できなかったこと、発信力が弱いことなど、いくつかのグループが課題を共有することでそれぞれのグループがパワーアップする姿を見ました。

桑原

昔はコーディネーターがマッチングしてくれて、たとえサポートセンターの課長が交代しても顔を知っているコーディネーターに何でも相談できて心強かったです。

山田

当時、黒岩さんは新聞を見ては、よその団体に電話を掛けまくってましたよね。

黒岩

つなげることが仕事でしたから。「交流会をやろう！」と、まず企画ありきで、そのために団体さんに電話を掛けまくってましたね。

山田(司会)

当時はサロンもそうだが、キッカケづくりや、力をつける講座、立ち上げ支援、団体間の交流会など活発な時代でした。それから17年という月日が流れ、現在、NPO 法人の大きな課題は、こういったことでしょうか？

久島

各団体は人材と事業基盤を作らなければ活動が続かない。協働もできない。一方サポセンは NPO の抱えている問題に対し、どう対応していくかを明確にしていくことが役割だと思います。

桑原

NPO 法人が少なくなっているという現象は肌で感じている。最近は飲食店が不景気なため障がい者施設として障がい者にスキルを教えます、というようなビジネスとして参入してくる企業もある。先方はビジネスとしてのツールもある。市民活動の延長上にある私たちの団体がどういう形でやっていたのかなあと思う。なにかヒントがあればほしい。

黒岩

今 NPO 法人の解散数が増え、既に登録のピークは終わっている。社会に求められている活動自体が減ったわけではなく、桑原さんがおっしゃったように一般社団法人が手頃さもあり増えてきています。かつては NPO 法人には認証によるお墨付きがあり信頼もあった。しかし今や一般社団法人も SNS を活用した活動の発信によりその透明性が確保されている。NPO 法人は手続きが大変で、相対的に地盤沈下というか古臭い組織になってしまった感がある。

NPO 法人と(ビジネスを目的にしている)企業とで協働し合えるところは協働し、NPO 法人だけがクリーンで社会の課題を解決する組織だと限定せず、両者それぞれが学び合いボーダーを取り払っての中間的な組織もありと思います。あまりにも市民活動やボランティアが営利を排除すると、何か行き詰まってしまうんじゃないかというのが、最近いろんな活動を広げていく過程で思う所でもあります。

山田

NPO 法人が廃れてしまったという訳ではないと思いますが、黒岩さんがおっしゃった様に入っていくのに硬すぎるさらいはある。法人格は同じだから信用という点では一般社団法人でもいいので法人格を取っておけば、いろいろなところに参入できるというメリットがある。

桑原

NPO 法人になったは良いが、やらなければならない足枷も多い。(サポセンに)横の繋がりや知識も頂きたいが、日々の業務も忙しく、関わりが持てない寂しさ、ジレンマがある。



コロナ禍の影響なのか、世代の違いなのか、最近ではサポセンに頼るより、オンラインや SNS での繋がりが主流な様でギャップを感じる。横の繋がりより不特定多数に発信し、反応があった方たちとやっていく傾向がある。ある意味転換期かも。

黒岩

登録団体は NPO 法人だけでなく、ボランティア組織も任意団体もある。更に NPO でも事業展開している組織とボランティア主体の組織があり、共通するのはそれぞれ 20 年ほど経って世代交代をどうやって進めるか、後継者をどうするか組織の継続性の問題に直面している。組織の熱き思いをどうやって共有しバトンタッチするか。それはサポセンの力だけではどうにもならない。

山田(司会)

やはり一番の問題は後継者問題。各団体はどう取り組んでいったら良いですか？また、サポセンはどう支えたら良いですか？

久島

若い世代の方が入ってきて、今までのやり方がまどろっこしいと見え、少しずつ改革していかなければならない時がきているなと思います。



ただやっぱり活動は人と人の触れ合いが基本。どこまで今風のツールを使っていいのか、またどこを残さなければいけないのか、合理化できるところは合理化し、大事にするところはどこなのか、みんなで確認していく時なのかなあと思う。

桑原

東日本大震災で“絆”とうキーワードが流行り良い意味で外との繋がりが持てました。逆に今コロナで、かなり制約があり外部との繋がりを持ちにくい。サポセンにそれぞれマッチングアプリ的な機能があつたらありがたいです。

臼井

プラチナサポーターズも 10 年の年を重ね、メンバーも 70 歳前後が主流となった。理事の顔ぶれも 10 年間同じ。コロナの影響で活動するメンバーも固定化されてきた。活性化のため、もっと外へ向けて新しい企画をせねばと考えています。

黒岩

先ほど桑原さんがおっしゃったこと（手法が変わって戸惑っているとのこと）。例えば資金集めをオンラインのクラウドファンディングでやるのが当たり前の時代。イベント参加や会員募集も



SNS が当たり前になっている。一方で、ボランティア元年から頑張ってきた団体さんが、20年の年齢がプラスされSNSについて行けないような状況になっている。

だとすると、SNS 世代の若者とマッチングすれば、次の活動スタイルになるし、継承もできるんじゃないかと。どうですか？

SNS 発信によって若い人たちが関心を持ってくれば、次の世代への交代が進んでいくと思うし、若い人にも社会貢献をしたいという気持ちが結構ある。ただ何をしたらいいかが分からない。たとえば、子育てが終わって、地域に入っていくことで見えてくる課題というものがある。みなさんの市民活動の立ち上げ時の年齢も、時間的・精神的な余裕が生まれた 50 代前後でしたよね。若い人たちにはそれ自体を仕事にする社会起業と呼ばれるものも存在する。そこら辺がマッチングすれば、新しいステージが見えてくるのでは。

山田(司会)

サポセンでも現在は職員の中にSNSに詳しい者や、使いこなす大学生が居り、YouTube や Twitter、Facebook のチャンネルを開設し団体活動の宣伝も行っています。電話でなくてメールや、Zoom で繋がったりもします。SNS 等のツールについては、基本は詳しい若い人にやってもらう？ みなさんはどのようにお考えですか？

桑原

今のお話を聞くとサポセンもしっかり時代について行っているんですね。できれば、その手法だけでなく感性も学びたいところです。

久島:

私はどうも Zoom は画面を眺めるだけで、意見を戦わすことができません。

桑原:

私も一回でも面識があればまだしも、Zoom が初めての会議では意志が通じ合わない気がします。

久島

私たちの団体は高齢者が主たる対象の活動です。高齢者の方たちにできるだけ新しい情報を伝えたいと思う時、一番伝わるのはやはり新聞とかそういうものなのかなあと思っています。伝えていく難しさや、時に無力さもすごく感じています。どこまで伝わっているのか？ まだまだやらなければならないことがいっぱいあるんじゃないか、とも思います。

ただ、小さな NPO だからそんな全部できるわけじゃない。存続を考えると「どこに焦点を絞って、何をやるか」、私たちのターゲットを明確にする、それが小さな NPO の一つの戦略です。そのターゲットにどう情報を届けるか、新しい情報の届け方も必要になってくるかもしれません。しかし今のところは(選択と集中で)なかなかそこまで踏み出せないでいます。

山田(司会)

ここからは未来に向けて、自分達の意志を持ってどのように変えていったら市民活動、NPO 活動が活発になるか、だからサポートセンターにはこういうことをやってもらいたいとか、こういう支援のやり方があるんじゃないか、とか、そういう観点で意見を述べてください。

久島

ライフデザインセンターが事務局となりサンタプロジェクト(困難な状況にある子どもたちに、クリスマスに本を贈る)をやっています。そこに、ここ数年松本大学の学生さん達が関わってくれている。今年は十数名の学生さんがプロジェクトの仕事を分担し関わってくれました。学生のうちから地域での市民活動的なものに関わりながら、学んでもらう機会をサポセンが積極的に作ってほしいです。

山田:

良い提言ですね。ちょうど今、市にユース担当ができて、そこにも力を入れています。当時は黒岩さんが、信大や松大、信濃むつみ高校の生徒さんなどに声がけしていました。何でもいから学生にサポセンへ足を運んで頂いてキッカケづくりになれば良いと思います。

久島

重要なのは学生だけでなく、実際に活動している人がそこに参加して交流していくことが大事だと思います。

白井

サポセンには沢山の登録団体があるが、団体同士の交流がないと感じる。以前、てくてくさんとはふれあいサロンのコーラスなどで繋がりを持てたが、コロナによる自粛で疎遠になった。



今日は同じ様に高齢者を対象とした団体さんがいることも改めて認識した。ここに登録されている団体のみなさんと、もっと関りを深めれば、お互いにもっと良くなるのかなあと思う。

山田

まさしく当初やっていた分野別交流会ですね。

久島

サラリーマンの方達とか、子育てが終わった女性の方達とか、今は定年後の人生は長い。そうした高齢の方達は何か社会と関わる仕事を持ちたいという気持ちが強いと感じています。行政や企業が手の届かない領域に対して、これからの市民活動を支えていく担い手として、この層が大きなコアになると思う。そうした高齢者の力も考えてよいのでは？

山田

そうなんですね。子育て終了後の女性とか退職した方など、働きたいとか、社会に出たいという方が沢山いらっしゃるということですね。

黒岩

まさにプラチナサポーターズはそうした目的で創られましたよね。

久島

必ずしも市民のグループに入らないで、どう関わっていくかを模索なさるのもいいんじゃないかと思いますね。

黒岩

こちらに登録されている団体さんは、活動するための機能(アプリ)。そこに活動者としてプラチナの皆さんが入っているような感じが出来てくるといいですね。人生100年でこれからどうしようという方もいっぱいプラチナ世代にはいると思う。

20年、30年後には、今のSNSを使いこなす30代、40代の人達がプラチナ世代になりますよね。その時はSNSが当たり前になると思います。その時代は確実にくるので、上手にSNS世代にバトンタッチしていただくと、本当の意味で社会に必要とされている活動は残ると思います。

プラチナ世代も取り込み、新しい世代も取り込んでいただくというのがNPOのこれからの生き残り、というか継承には重要じゃないかなあと思います。

山田

SNSに長けてなくてもパソコンをある程度使えるなら事務もできる、また力仕事もできる、そういった思いで聞かせていただきました。またNPO、一般社団法人、社会福祉法人など法人の形態もいろいろあるので、その辺の勉強も必要だと感じました。



久島

社会福祉法人も以前より小規模で出来るようになったようですね。

黒岩

改めて久島さん、桑原さんのような永く継続している団体の、活動を見直すことが重要だと思います。どの時代も求められている活動は残ると思うんです。今ちょっと厳しいのは後継者がいないこと。その為には活動を知ってもらう必要があります。YouTube等活用し、古くからある活動を改めて掘り起こして伝えていく、その支援がサポセンの役割であると思います。

山田

そうですね。逆に言えば20年も続いているという事実が、それなりに活動がしっかりしていて、苦しいところもあるけれど基盤がしっかりしているからこれだけ20年もやってきている。

サポセンにはYouTubeチャンネルのインフラがあるので昨年からは新しい企画ものを中心に、団体紹介の動画配信などを始めています。これをもっと活用してもらうように働きかけていきます。

黒岩

動画配信による「Close Up!」といったところですね。

山田(司会)

そろそろ時間となりました。本日は座談会ということで、いろいろと貴重なご意見をいただきました。何かまた機会があれば、このような気さくにご提言いただく場を設けさせていただきたいと思います。本日は誠にありがとうございました。



2023.1.26 座談会 関係者一同の集合写真

サポセン・チャレンジ新企画 ぞくぞく開催

昨年(令和4年)10月よりスタートした「サポセン・チャレンジ新企画」、好評のうちにイベントがぞくぞく開催されています。この半年あまりで以下のイベントが終了いたしました。中には従来からの定番イベントもありますが、なんとと言っても「サポセン・チャレンジ新企画」の肝は、Youtube チャンネル等でのイベントの「事前告知」や「実施記録」の動画配信による、団体様の認知度向上にあります。継続受付けておりますので奮ってご応募ください。

<サポセン・チャレンジ新企画> 終了及び現在進行企画

①子どもが輝く食育ネットワーク松本
「いただきます 2」の上映会



②学習支援センター 実帰舎
紙芝居動画「ヒスイと黒曜石が出会ったら」



③信州ツキノワグマ研究会
ツキノワグマ紙芝居原画展 & 学習パネル



④サンタ・プロジェクト・まつもと
サンタ・プロジェクト・まつもと開催告知



⑤地球環境フォーラム
科学の不思議さおもしろさを楽しむ企画展



⑥障害者パソコン研究会
みえない人、みえにくい人のための
タブレット勉強会(現在進行中)



<サポセン・チャレンジ新企画> 今後の予定企画

- ⑦「NPO 法人総合体操クラブ Wing」・・・Wing まつもと R.G 実技発表会(2月23日)
- ⑧「長野県シニア大学 パネル・ポスター展」・・・長野県長寿社会開発センター(2月上旬～)
- ⑨「色活用のカウンセリング・デー 企画」・・・日本色育推進会 長野色育会(3月19日～開始)

< サポートセンター通信第100号に寄せて >



地域づくり課長
廣田 圭男

皆様におかれましては、松本市の公共的・公益的活動に日々ご尽力をいただき厚く御礼申し上げます。松本市市民活動サポートセンターは、平成17年9月の開設以来、市民活動への支援及び情報収集・提供を続けてきました。

そのような中、このたびサポートセンター通信が記念すべき100号を発行する運びとなりました。これもひとえに皆様のご理解、ご協力の賜物であり感謝の念に堪えません。

さて、少子高齢化や人口減少が急速に進む昨今、新型コロナウイルスの感染拡大や国際情勢の激変なども重なり、人々の生活は大きな不安に包まれています。これらの増大し複雑化する課題を行政だけ、あるいは市民だけで解決することは困難です。今後ますます、市民活動団体をはじめ行政や地域などの協働による取組みが重要になってくると思います。

市民活動サポートセンターは、引き続き、市民活動団体をサポートし、様々な主体との協働をコーディネートしながら、皆様と一緒に松本市の課題に向き合いたいと考えています。

サポートセンター通信が200号、300号と続き、市民活動サポートセンターがこれからも長く皆様と一緒に歩んでいけるよう、さらに努力していきますので、引き続きのご理解ご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。(廣田)

■ イベント情報



【 草間彌生 人と芸術の世界 】

～ プラチナサポーターズ松本 結成10周年記念講演会 ～

郷土の偉人「草間彌生」、その歩みと活躍の様子やエネルギーギッシュな生き様と芸術の世界を学びます

- ◆日時：3月4日(土) 13:30～15:30 (開場 13:00)
- ◆会場：松本市美術館 2階多目的ホール(松本市中央4-2-22)
- ◆講師：松本市美術館 学芸員 渋田見 彰さん
- ◆参加費：無料
- ◆定員：先着80名 *申し込みは電話、FAX、Eメールで
- ◆主催/問合せ：プラチナサポーターズ松本
TEL/FAX：0263-88-2988
E-mail：platinum@support-center.jp

【 ふれあいサロン ひな祭り 】

～ 障がい者就労支援施設・市民交流販売会 ～

参加施設の自主製品、お弁当、クッキー、クラフト品等を販売

- ◆日時：3月2日(木) 10:30～14:00 (販売会/人形劇)
- ◆会場：松本市市民活動サポートセンター (大手事務所 2F)
- ◆参加費：無料
- ◆問合せ：松本市市民活動サポートセンター
TEL/FAX：0263-88-2988

【 長野県シニア大学 説明会 】

～ 令和5年度長野県シニア大学学生募集に向けて ～

シニア大生の持つ知識、経験について共有する機会として、勉強会・交流会を実施します

- ◆日時：3月9日(木) 11:45～12:00
- ◆会場：松本市市民活動サポートセンター(大手事務所 2F)
- ◆参加費：無料
- ◆主催/問合せ：長野県長寿社会開発センター松本支部
TEL：0263-40-1912、FAX：0263-40-1803
E-mail：k-otsuka@nicesenior.or.jp

【 色活用のカウンセリング・デー 】

～ 色育8カードによるカウンセリング体験 ～

人にはそれぞれの色(個性)があります。比べるのではなく自分を認め自分自身を信じること(自己肯定感)やお互いを尊重することを体験してみませんか?

- ◆日時：3月19日(日) 10:00～12:30
- ◆会場：松本市市民活動サポートセンター(大手事務所 2F)
- ◆参加費：大人 500円
- ◆主催/問合せ：(株)日本色育推進会 長野色育会
TEL：090-4153-5693

■ サポートセンターより



プラチナサロン 3月

日時：3月9日(木) 10:00～12:00
内容：悲しみに寄り添うケア集団の活動を通して
講師：飯島恵道住職
会場：市民活動サポートセンター
対象：おおむね55歳以上
参加費：300円

プラチナサロン 4月(未定)

日時：4月13日(木) 10:00～12:00
内容：未定
講師：未定
場所：市民活動サポートセンター
対象：おおむね55歳以上
参加費：300円

プラチナサロン 5月

日時：5月11日(木) 10:00～12:00
内容：野鳥&樹木ウォッチング
講師：上條 恒嗣
場所：アルプス公園
対象：おおむね55歳以上
参加費：300円

編集後記

本号は記念すべき第100号となりました。これまでのサポセン通信・第1号～99号を紐解き、サポセン17年の歩みを年表にまとめました(本号2頁)。1995年1月の阪神淡路大震災をきっかけにボランティア活動が活発化し、それを受けてNPO法人や市民活動の勃興という時代背景の中、「松本市市民活動サポートセンター」は2005年9月に開設されました。黎明期から創生期にかけ、当時ボランティア活動は大変な熱量だったことがしのべられます。大きな節目として、2011年3月の「東日本大震災」、2016年策定の「市民活動と協働を推進するための基本指針」、2020年からの「コロナ禍」などに活動は大きく影響を受けました。また2017年頃からは長年の功績が認められ、各種表彰される団体様も登場し始めたことがうかがえます。

尚、特集記事の「座談会」は、読み応えのある内容となっているかと思っておりますので、是非目を通していただけたらと思います。私も書記として参加し、初代コーディネーターの方が、創生期から成長期にかけ、各種団体様を結び付けるサロンや交流会、立ち上げ支援など、獅子奮迅、八面六臂の活躍をされていたことも知りました。ひるがえって、事務所にこもり、日常業務に汲々としている自分は、コーディネーターとしての役割を十分果たしているのだろうか?と大いに自問する日となりました。

追伸：

最後に、これまでのサポセン通信の発行に携わって頂いた関係者の皆様、そして毎号の編集に心を砕いてくださった歴代コーディネーターの皆さん、そしてなにより、いつもご愛読いただいている読者の皆様に、この場を借りて御礼申し上げます。

今後ともご愛顧の程、よろしく願いいたします。(永田)